

「2015年浙江大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学薬学部・3回生 松吉康志

私は今年の春休みの2週間を利用して中国の浙江大学へ短期留学に行きました。そこで得られた経験や情報について書いていきたいと思います。

まず、今回の留学ではたくさんの海外の大学生と交流する機会が多く持てたのがよかったと思います。中国と日本との関係は近年あまりよくないと言えますが、そんな中でも中日友好のために貢献しようとしてくれる多くの大学生と交流できました。中国人の学生だけでなく、浙江大学に留学している世界各国の大学生や、同じ時期に留学していた北海道大学や静岡県立大学の人たちとも交流することができ、いろいろ話したり、意見を交換したりすることができました。

また杭州や上海、蘇州などを観光して、中国の歴史や文化にも触れることができました。私は今まで中国に行ったことはなかったのですが、実際に中国の文化遺産を訪れてみて、日本よりも規模が大きいものも多く、感銘を受けました。また中国から日本に伝わった文化などにも触れることができました。

中国は日本とは大きく異なる部分もありました。例えば中国は人が多いので道路も混雑しがちであること、そして日本では歩行者優先ですが、中国では車と歩行者はどちらが優先ということでもないということです。他にも私自身2回ほど腹痛になりました。中国と日本の食べ物は異なりますので、食べ物に注意したり、腹痛を抑える薬を持って行くなどした方がいいと思いました。

語学力という点では、浙江大学の学生の方々は英語だけでなく、日本語も上手に話せる人が多くいて、日本の大学生よりもずっと語学力があるなと感じました。また買い物をしたり、タクシーに乗ったり、ホテルに泊まる際には、日本語はもちろん英語が通じない場合が多く、中国に行く場合はやはりある程度の中国語力は欠かすことができないなと思いました。浙江大学で2週間授業を受けることができたのは非常にためになりました。この2週間の留学で語学の重要性を痛感することができたので、これからは中国語と英語の勉強を頑張っていかなければならないなと思いました。

2週間の短期留学を経てこれらのとても多くのことを得られました。この経験を残り3年間の学生生活に活かしていきたいと思います。